

## 第5期第8回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2021年2月26日（金） 午後2時～4時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター ホール

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、荒井仁、荒井容子、大野浩子、白崎好邦、関村浩、西澤正彦、服部くに子、山口隆三、以上10名（内リモート参加1名）

〔欠席者〕 相澤真理、堂前雅史

事務局：塩田センター長、田中担当課長、岡田管理係長、高木事業係長、鈴木担当係長、中野担当係長、岩田担当係長、三橋主任

〔傍聴人〕 5名

〔資 料〕 【資料1】 東京都公民館連絡協議会報告資料  
【資料2】 2020年度下半期事業実績報告  
【資料3】 課題取りまとめ  
【資料4】 コミュニティスクール資料  
【資料5】 生涯学習センター利用者アンケート結果  
【資料6】 生涯学習センター運営協議会2021年度日程（案）

### 1 報告事項

#### （1）センター長報告

- ・生涯学習審議会について、諮問をした1月18日の第5回に続いて2月17日に第6回会議が開催された。この2回の会議では諮問に沿って検討を進めるうえでの導入部分として、生涯学習センターだけではなく、他の部署も行っている町田市における生涯学習について説明がされた。
- ・資料のとおり昨年実施したアンケート結果が出たので報告する。
- ・2021年度の運営協議会の日程について、資料のとおり本年度より2回少ない6回で予定している。
- ・町田市では、4月以降に新型コロナウイルスのワクチン接種を高齢者から実施する予定だが、メイン会場として生涯学習センターの7階フロアを使用することになった。

#### （2）生涯学習審議会について（会長報告）

- ・第4期の中間報告内容も含めて運営協議会で議論している内容等について説明した。

#### （3）東京都公民館連絡協議会報告

○白崎委員から資料に基づき報告

- ・第10回委員部会が1月27日に緊急事態宣言下のため書面開催で実施した。「コロナ禍では公民館と利用者のつながりにオンラインを利用することは、良いきっかけだと思います」などの意見があった。

- ・情報交換テーマ「公民館から市民に対する情報発信のあり方」の最終版を作成した。今後  
に期待することとして、Z o o mの説明やW i - F i設備の充実が上げられていた。

#### 【委員質問・意見➡委員回答】

- ・オンライン配信について議論されたということだが、オンライン配信するには映像を作ら  
なければいけない。公民館は人が集まる場所。人が集まることに投資することの是非を  
考え公民館をスタジオとして提供する発想は出なかったか。➡これからの課題と捉えてい  
た。
- ・小中学校はどこも、これからオンライン一辺倒でやろうとは言っていない。ここも教育現  
場なのでオンラインに全て変わるということではなく、集まることがbetterなので、補助  
として最大限オンラインを使うことだと考える。
- ・併用が理想で場所にこだわり、それに頭が切り替わらないことが問題。
- ・町田市はW e b E xやZ o o mを使って活発に活動している。他市は設置を検討など一歩  
遅れているように思う。この中では組織をどう動かすかは見えない。

【会長】この続きは、この後のテーマ「(3) 学びの裾野を広げる」「(4) 学びのネットワ  
ークづくりを促進する」で議論いただきたい。

- ・来年度から東京都公民館連絡協議会委員部会の委員は白崎委員から西澤委員に交代され  
る。

## 2 議 題

(1) 2020年度事業実績報告について（下半期事業を2回に分けて報告の2回目）

○事務局から資料に基づき各担当職員が説明する。

- (1) 公民館事業：「まちチャレ」③～⑥を報告。③『誰でも一緒に楽しめるスポーツ～パラス  
ポーツ&フラダンスを体験して共生社会を考えよう～』は緊急事態宣言下にぶつかり、3回  
目のフラダンスは中止、4回目のフラダンスはホールにテーブルで枠を作りその中で踊って  
もらった。最終回の講演は録画配信に切り替えた。④『誰にでも「学びの場」を！～自主夜間  
中学ってなに？』参加者だった大学生が引き続き「学びテラス」のボランティアになった。  
⑤『自分に素直にはたらくを考えよう！～子育てしながら、町田で暮しながら、はたらく  
～』育児中の親を対象とした講座で、全て録画配信に変更した。参加者からは録画配信だ  
からできる一部停止や2度視聴など、録画配信でも得られるものがあつたと感想。⑥『身近な  
外国人と伝わる日本語でコミュニケーション！』は募集からわずか2日で埋まり、生涯学習  
センターに初めて参加した割合が59%だった。職員が思いつかなかった新しいテーマを市  
民が持ってきたことにより新しい受講者が得られた。

「家庭教育支援事業」①～⑫事業では通常4月開催だが、コロナ対応により8月から開  
催。3密を避けるため、募集定員及び保育定員も減らし、保育室はプレイルーム等も保育室  
として利用し分散保育を実施した。①～④は保護者向け講座で家庭教育や子育てに役立つ知  
識の習得、受講者間の仲間づくりを目指している。⑤～⑦は親子参加の講座。従来は自由参  
加で10組前後が参加していたが、3密を避けるため親子5組の申込制に変更し、すぐ埋ま  
る状況が続いている。⑧～⑫は地域の子育て支援の担い手の育成講座。⑧『家庭教育支援学  
級』は2年制のグループ学習。⑨『ママゼミ』は①～④受講者に声掛けして集まった方たち  
を対象にした講座企画などを学ぶ1年目の講座。2年目は実際に講座の企画・運営を行う⑩

『19ゼミ（今年の内容）』。⑫『子育てカフェ つばめ』は⑧卒業生による企画・運営講座。支援は保育室の無料利用や相談を受けること。

「障がい者青年学級事業」はオンラインの試みや午前・午後に分かれての活動などを実施。現在は活動中止中で、3月7日の宣言明け後に活動再開予定。このような中でも公民館学級は継続実施ができ、成果発表の来賓はオンライン上での参加とした。担当者不足により活動に支障が出ている。コロナ禍で、学級生の土日の予定がなくなり、青年学級の重要性が増している。

「その他事業①」のコンサート事業の4月は中止、12月、2月は開催。国際交流センター共催講演会を2月実施予定。

「その他事業②」の各地区協議会との共催事業は、鶴川地区との『3水スマイルラウンジ』は3回実施3回中止。玉川学園・南大谷地区と高ヶ坂・成瀬地区とは協議中。『まなびテラス』は夜間実施から午後実施に変更して継続中。『生涯学習センターまつり』はインターネット型のホームページで成果発表を現在実施中。来年度の第10回開催に繋げられる開催となった。

(2) ことぶき大学事業：前期は中止、後期から開始。「くらしコース」、「音楽コース(堺市民センター)」は座学中心の歌わないハミング唱法で実施。「教養コース」は今タイムリーな『近代日本の創造者 渋沢栄一』を実施。「探・探ゼミナール」はゼミナールを受講した上級生のサークル[探・探会]と共催で学習発表会を実施。

#### 委員質問・意見➡事務局回答】

・来年度、ホールは予防接種会場で使用できないが、事業開催はどうするのか。公民館まつりはYouTubeでじっくり見られて良い。

【センター長】代替えとして、中央図書館、市民フォーラム、予防接種会場になっていない市民センター等のホールを利用して、できるだけ回数を減らさず実施する予定。➡Wh i -H iは学習室1・2及び視聴覚室で人数減らして実施する予定。

・「探・探ゼミナール」の展示は盛況だが募集人数の半分以下の参加しかない。前回の人の出展があるのか。➡そのとおり。2年目、3年目の方も参加し活動がスムーズになっている。

・ことぶき大学の講座をQRコードで見ることはできないか。もったいない。➡録画はしていない。オンラインにすると著作権等が関係する。今後の課題。

(2) 審議会答申・改革プランを踏まえた生涯学習センター事業の推進について

【会長】検討スケジュールに従い、本日は「課題解決を支援する」について議論する。

・審議会答申の課題を16項目に分類し、それを「A 地域環境整備」「B 地域推進体制確立」「C 地域講座・プログラムの検討」「D 地区協議会との連携」に分類し、更に地域にどのように導入したら良いのか課題解決提案を書き、最終的には生涯学習センターは何ができるかということで『1では、各地域は望んでいるのか分析する必要がある』とした。これらを図式化し、最後に『物・人・金の支援』が必要とまとめた。

- ・現在、自治会活動はコロナ感染対策でほぼ休止状態にある。また、プライバシー意識の高まりにより住民同士の個人情報秘匿する傾向は高まり、地域連帯を維持できるかどうか問われている。その中で住民に学習機会を提供する活動を展開するには、デジタルの世界で地域にこだわらない中央でネットワークづくりを行い、それに附属する形で地域があるという形にした方が良い。
- ・意識を持っている人たちが、どうにかしたいという人たちを掘り起こして育成することが一番早い。色々な場所で実際に支援活動をしている人たちの中の指導的役割の人を集め、その方たちの情報や悩み・壁、行政への要望などを共有し、それをセンターは拾い上げる。次に、そこに集った人たちが講座の主人公になり他の人にレクチャーし共有していく。そういうシステムを講座・イベント・カフェなど形式は様々で作れば広がり早いのではないかと。これらを、主体となってやるのがセンターの役目ではないか。
- ・改めてアンケート結果からも認知度の低さを確認した。認知度を高めるため、地域に根ざしている社協や鶴川地区などと草の根で地道に知らせ、ネットワーク作りをしていくことが必要。障がい者を持つ親たちは子どもの代弁者として、子どもが安心して地域で暮らしていけるよう考えている。障がい者や福祉に関係する事業については、生涯学習センターが全て担ってほしい。
- ・1つはコミュニティ・スクール活動の支援として、学校支援ボランティアコーディネーターの活動を支援すること。学校活動や地域の課題解決を支援することに繋がるため。2つ目は既存の取組みの捉えなおしを含めた地域の課題解決として、「講座づくり★まちチャレ」は地域に新しい発信をして大変参考になる。「地域の課題解決をやりたいと思っている」又は「何かしたいが一步の踏み出し方が分からない」方・グループに対しては、そのグループが解決に向けての講座を企画・運営し、地域課題の実態を調査し課題解決のアイデアを形にしていく体験学習講座を実施する。そのためには、センターの情報が電子で都度届くようにし、地域協議会と連携する。
- ・解決すべき地域課題は何かをキャッチすることは非常に重要で難しい。その課題は市民が中心になり得るか。報酬を求められないので、それでもやりがいを感じ、楽しく継続できるか。行政サービスがマンパワーや金銭的に良くなっていくことは想定しにくいので、生涯学習センターがそれぞれの地域の特色を理解しながら課題を見つけて、要請し、地域に戻すことは困難と考える。直接地域課題に取り組む他部署から、課題解決のための市民がスキルを身につける学習支援への依頼を受けて、それに沿った講座を依頼元と協力して行う。講座卒業生をグルーピングして継続の仕組みづくりを行う。
- ・課題が無い地域はない中で、どう学習に結び付けるかが課題。年に1、2回でも事業照会をする。地区連合会でも紹介する。各部署実施の出前講座の取組情報をまとめた冊子があると良い。地域の人材育成によって、何も知らなかった主婦が今こうして座っている。動機が大事。それに気づいた人たちを支援していく。
- ・まず、生涯学習センターで実施するのか他施設で実施するのを支援するのか整理する必要がある。次に、既に取り組む個人・団体が特定の課題を深める取組を支援する場合と、団体等の活動を発展させるために個々の団体を越えた議論を行う場合がある。更に、地域課題に限らないが、多くの人々が感じている課題の解決に向けた、啓蒙的ではない身近な地域の人々の生きざまを学ぶような地道な講座を続けていくことが課題解決に繋がる。そして、地域協議会との連携も大事。
- ・サポーター制度、ボランティアの募集、オンラインの活用、クラウドファイティングを利用して事業に投入する。今までと違ったやりかたをしないと効果は出ない。

【副会長】大前提としていたことを確認したい。来年度の会議を8回で想定していたが、6回に減ったため事務局と調整したい。次回もこのテーマで議論をすることを大前提で話したい。委員の話にあった地域のプライバシーの問題はコロナに関係なく地域が抱える課題と思う。このような具体的な悩みをこのセンターがどう答えるのか議論していくことだと思う。これに答える仕組みをセンターはどう整えていくのか。これに対していくつかポイントが出ている。各地域の整理・明確化。大前提として、センターそのものが地域課題を解決することはできない。センターは課題解決するための学習の手伝い、人と人を繋ぐ手伝いがメイン。地域課題の整理・明確化したものをどう学習の形に、人が学び育つ支援をしていくか、どうシステム化して支えていくのかポイントを絞って議論をしていく方が良い。まちチャレで「優しい日本語講座」に人が集まったのは、センターが捉えきれないニーズを市民側が応募し講座化した。まさに、まちチャレが持つ地域課題を解決した学びをセンターが支える具体例。今後はこの学びをどう発展させていくのか、この仕組みをどう作っていくのかが議論になる。

【会長】来年度のスケジュールは事務局と調整する。

- ・答申では、「市民の学習ニーズは多様化しておりそれらの全てに学習センターが答えることはできない」と言い切っている。一つひとつの課題は無数にあり時代と共に変わる。だからどうなの、こうしたら始まるという具体論が欲しい。

【会長】「課題解決を支援する」は十分議論されていないので継続して議論する。

- ・事業のシステムについてどこかで議論したほうが良い。

#### その他

(1) 2021年度開催日程について

【事務局】会長、副会長と調整する。

- ・提案ですが、シングルマザーとか高齢者の方にここにきてもらい話を聞くのはどうでしょうか。

【副会長】ポイントとして改めて議論の柱を考えてくる。センターにとって、まちチャレは大きな財産だと思う。地域課題とまちチャレという視点でもう少し議論を深められないか考えている。